



飯能河原遊歩道 The promenade along the Hannoriver この写真は車乗入れ禁止前のものです。

© photo by Isao Yoshida

# “THE FUTURE OF ROTARY IS IN YOUR HANDS”

ロータリーの未来は あなたの手の中に

RI会長  
ジョン・ケニー  
2570地区ガバナー  
加藤 玄 静

今を大事に

## 第 2382 例会 2010.4.14

——— ロータリー雑誌月間 ———

天 候 晴 (NO.46-42)

会 長 木川 一 男 幹 事 山川 莊太郎

例会日 水曜日(12:30~13:30) 当 番 神田(敬)君、小久保君

例会場：マロウドイン飯能 〒357-0021 飯能市双柳105-8  
☎(042)974-4000

事務局：飯能商工会議所内 〒357-0032 飯能市本町1-7  
☎(042)974-3111(代) FAX (042)973-1662  
<http://www.hanno.jp/~hannorc/> Eメール hannorc@hanno.jp

- ・ 点 鐘 木川会長
- ・ ソング 君が代 奉仕の理想
- ・ 四つのテスト斉唱 田辺職業奉仕委員
- ・ 卓 話 大野広幸様

### 【会長報告】

「まろうど」は「客人、旅人」、「INN」は「宿」。「マロウドイン飯能」はH6年10/3の開業で、母体は池袋に本社のある東都自動車(株)。主力はタクシー部門で、他に観光バス、ゴルフ場、不動産賃貸、自動車教習所等、幅広く事業展開されているとのこと。ホテル部門はS53年、赤坂の開業を皮切りに、東府中、大宮、軽井沢、箱根、八王子、熊谷、土浦、成田、飯能と10店舗を構え、「ホテルマロウドチェーン」として現在に至っておるとのことです。

4月は、RI公式機関紙「ザ・ロータリアン」、世界31の地域雑誌の講読と活用促進に役立つプログラムを実施する「雑誌月間」です。「ロータリーの友」等に対する会員の認識を深め、それによってロータリーの情報の普及を図るのが目的。クラブはこの月間中にプログラムを実施しなければなりません。初代RI事務総長によって「ザ・ナショナル・ロータリアン」(1912年より「ザ・ロータリアン」)が創刊された1911年1月25日を記念して当初は1/25を含む1週間を「雑誌週間」としておりました。「手続要覧」には「各会員は会員身分を保持す

る限り、RIの機関雑誌またはRI理事会から本クラブに対する承認並びに指定される地域的なロータリー雑誌(日本では「ロータリーの友」)を購読する義務」が定められています。

3/31に劇的な別れを飯能プリンスで行ったわけですが、親睦活動委員の皆様には大変お世話になりました。

1991~92年度の森三郎ガバナーが9/25に話された内容を、前半・後半に分けて話させていただきます。

森三郎先生は1921年3月5日、寄居町生まれ。京都大学法学部卒業後、大蔵省、浦和税務署長、日本専売公社広報課長、総裁秘書役、日刊工業常務取締役を歴任。日本文化にも造詣の深い方だったそうです。

先天的なもの、後天的なもの。田舎と都会の接ぎ木...。飯能へ参ります時に、車窓に展開される大和絵のような風光を見て、自分の中に棲んでいる日本人としての心をくすぐられました。うっとりとしていました。田舎の山や川の佇まいほど私達をほっと安心させてくれるものはございません。実はP・ハリスも同じ心を持っていました。彼はシカゴに来て、少年時代を過ごし、田舎の温かい人情と自然が忘れられず、言わば都会の砂漠の中に田舎というオアシスをつくるような気持ちで最初のロータリークラブをつくったとのこと

